

鹿児島県立図書館基本的運営方針

人づくりに貢献し，成長し続ける図書館

〈県立図書館の4つの役割〉

～支える・役立つ・つなぐ・育む～



令和2年3月

鹿児島県立図書館

<目次>

I	策定の趣旨	1
II	鹿児島県立図書館の現状	2
	1 近年の県立図書館の歩み	
	2 近年の図書館サービス実態	
III	策定の経緯と目指す図書館像	5
	1 策定の経緯	
	2 目指す図書館像について	
	(1) 本県の施策等の観点から	
	(2) 国の公共図書館に係る法令等の観点から	
	(3) 県民のニーズ（市町村立図書館等及び来館者等アンケート）の 観点から	
	(4) 先進県の研究から	
	(5) 図書館協議会委員からの意見聴取	
IV	基本目標及び重点となる事業・指標	11
	1 支える図書館（地方奉仕の視点，ネットワーク構築，調査研究の拠点）	
	2 役立つ図書館（主に館内奉仕の視点）	
	3 つなぐ図書館（居場所としての図書館，交流の場，学びを生かす場としての視点）	
	4 育む図書館（子供・大人読書活動推進，人を育む，郷土文化の理解と継承）	

I 策定の趣旨

鹿児島県立図書館は、これまで、県民の生涯学習を支援する中核施設として、幅広い資料を収集・整理・保存するとともに、情報拠点として質の高い資料・情報を効率的に提供し、「県民に役立つ、利用される図書館」を目指してその運営に努めてまいりました。

また、本県の図書館活動充実のため、県立奄美図書館と連携しながら、市町村立図書館の運営や諸活動を支援するとともに、学校図書館、関係機関・団体との連携・協力を図ってまいりました。

近年、急速なグローバル化や情報技術の発展、少子高齢化の進展など地域を取り巻く環境が大きく変化しています。それに伴い、地域課題の複雑化・多様化による図書館に対するニーズの変化、指定管理者制度の導入や首長部局への移管を可能とする制度改正などによる図書館の運営環境の変化等といった、社会の変化に伴う新たな課題への対応が求められています。

また、社会教育法の改正を踏まえた図書館法の改正（平成20年）に伴い、図書館の運営状況についての評価の実施や評価に基づく運営改善、その結果の住民への情報提供等が努力義務化されました。

これらの背景や経緯を受けて、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成13年文部科学省告示）」が改正され、平成24年12月に、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（以下「24年基準」という。）が告示・施行されました。この「24年基準」の中では、都道府県及び市町村の公立図書館の役割の明確化もなされています。

さらには、「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律」（読書バリアフリー法。令和元年。）も施行され、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けても図書館の重要性は高まっています。

このような図書館を取り巻く動向を踏まえ、おおむね10年後を見据えた鹿児島県立図書館の目指すべき姿と、今後の取組の方向性を示すものとして「鹿児島県立図書館基本的運営方針」を策定しました。

II 鹿児島県立図書館の現状

1 近年の県立図書館の歩み

令和元年で創立117年を迎えた当館は、昭和55年に当地に新築移転し、平成30年度末現在で、蔵書約86万冊を有しています。

平成6年度の電算システム本格導入に伴い、資料検索手続の簡便化、図書館業務の効率化が図られ、インターネット上で、蔵書検索、貸出予約、貸出延長が可能になりました。

平成8年度には県立図書館で借りた本を、居住地の公共図書館(室)に返却できる居住地返却を導入しました。その後、県内市町村図書館(室)との相互貸借も行うようになりました。

平成10年度からは祝日開館を実施し、平成17年度からは仕事帰りの社会人や部活動後の高校生も利用しやすいよう、平日及び土曜日の開館時間を2時間延長し、9時から21時までとしました。

平成12年度には図書館でのボランティア活動を希望する人々を対象にした図書館ボランティア養成講座を開設し、以降その受入れも行っています。

平成25年度からは、平成24年に解散した(財)海音寺潮五郎記念館からの寄附金をもとに、図書購入や記念事業、貴重資料のデジタルアーカイブ化等を実施しています。

平成27年度には雑誌スポンサー制度を導入し、民間事業者に雑誌を広告媒体として提供してもらうことで、図書館資料の充実を図っています。

市町村立図書館(室)の要請により、県立図書館の蔵書を市町村に貸し出すシステムである貸出文庫は昭和22年に開始され、現在もなお、年間で2万冊を超える貸出しが行われています。

読書活動推進については、各地域で実施される研修会に職員を講師として派遣したり、県内の公立・学校図書館職員対象の図書館講座を開催したりしています。特に、鹿児島県図書館大会は、読書活動・図書館活動の一層の充実を図ることを目的として開催しており、毎年公共図書館や学校図書館の関係者約600人が参加しています。

また、所蔵する約86万冊のうち、容易に閲覧に供せない郷土の貴重資料については、年数回、テーマを設け展示を行っています。

このように、県立図書館では、幅広い資料の収集保存公開、市町村立図書館の支援など県の中央的図書館として関係機関と連携しながら、「県民に役立つ、利用される図書館」を目指して取り組んでまいりました。

2 近年の図書館サービス実態【過去10年間の変容等】

(1) 蔵書の構成（冊数）

		平成20年度末	平成30年度末
一般閲覧室用	開架	78,380	114,965
	書庫	459,423	572,652
児童文化室用	開架	48,173	49,555
	書庫	54,484	86,970
地方奉仕用		72,735	31,780
合計		713,195	855,922

- ・ 一般開架資料が約36,000冊，児童文化室開架資料が約1,400冊の増。開架図書を増やすことで利用者が手に取りやすくなるようにしている。
- ・ 地方奉仕用資料の減は，平成29年度まで鹿児島県立図書館整理基準に基づき順次除籍したため。

(2) 利用状況等

		平成20年度	平成30年度
入館者数（人）		625,580	482,087
＜内訳＞	閲覧室等	329,547	293,386
	学習室	296,033	188,701
登録者数（人）	延登録者数	104,704	143,248
	年度別登録者数	4,646	3,319
貸出冊数（冊）		308,773	320,329
調査相談回答件数（件）		22,492	25,254
書庫資料閲覧冊数（冊）		57,226	47,634
新聞マイクロフィルム閲覧数（巻）		4,924	1,998
館外貸出者数（人）		87,524	84,207
貸出文庫配本冊数（冊）		22,213	22,001

- ・ 入館者数減少が続いているが，大きな要因は学習室の利用者減。
- ・ 貸出冊数は平成28年度に29万冊台まで減少するが，その後2年間増加している。

- ・ 書庫資料閲覧冊数は平成27年度に43,100冊まで減少。その後増加している。
- ・ 新聞マイクロフィルム閲覧数は、フィルム劣化のため減少が続き平成29年度に初めて1,807巻と、2,000巻を割った。

(3) 全国都道府県立図書館との比較 (数値上段は奄美図書館との合算。〔 〕内は全国平均)
(全国平均は、全国の総計を都道府県数で除した数値)

	平成19年度末	平成29年度末
蔵書冊数 (千冊)	828 [861]	1,055 [1,048]
	県立：699 奄美：129	県立：830 奄美：225
受入冊数 (冊)	23,360 [27,379]	26,571 [20,878]
	県立：20,394 奄美：2,966	県立：20,356 奄美：6,215
個人への貸出冊数 (千冊)	368 [400]	429 [351]
	県立：297 奄美：70	県立：312 奄美：117
図書館等への貸出冊数 (冊)	27,559 [22,222]	35,127 [20,982]
	県立：26,977 奄美：582	県立：33,868 奄美：1,259

[データは『日本の図書館2008』，『日本の図書館2018』から]

- ・ 奄美図書館との合算では、平成29年度末はすべての項目で全国平均を上回っている。
- ・ 奄美図書館の貸出冊数がこの10年で大幅に伸びている。

(4) 県内公立図書館と全国公立図書館との比較 (*〔 〕内は全国の平均等)

	平成19年度末	平成29年度末
蔵書冊数 (人口百人当冊数)	266.1 [293.6]	342.1 [349.7]
受入冊数 (人口千人当冊数)	136.3 [146.0]	100.1 [125.4]
館外個人貸出 (人口百人当冊数)	276.4 [501.9]	318.1 [522.7]
館外団体貸出 (千冊)	277 [総数17,434]	451 [総数24,278]

[データは『日本の図書館2008』，『日本の図書館2018』から]

- ・ 県内公立図書館の蔵書冊数は、全国平均程度まで伸びてきた。
- ・ 館外個人貸出数は、10年前と比べて若干差が縮まってはきているが、依然全国平均を大きく下回っている。(一人当たりの差が2冊以上)

Ⅲ 策定の流れと目指す図書館像

1 策定の流れ

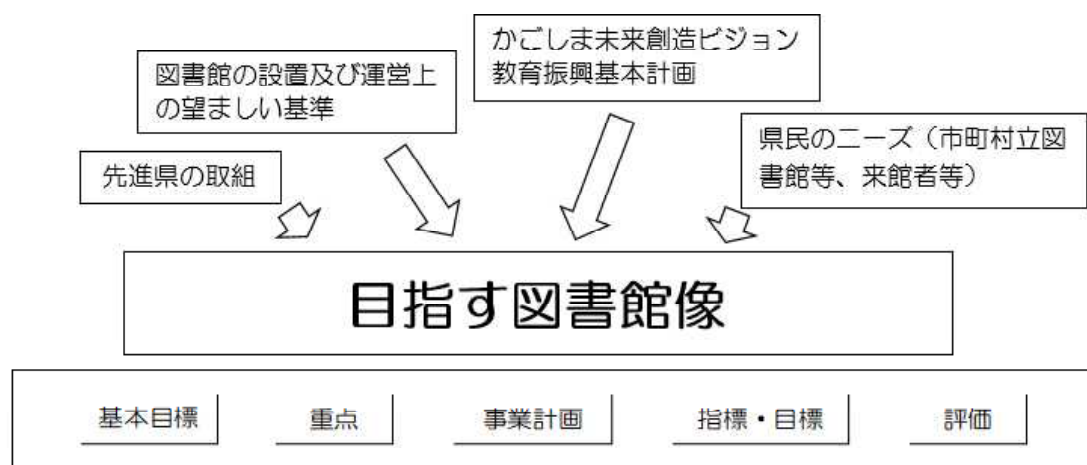
今回の「鹿児島県立図書館基本的運営方針」策定に当たっては、前述した鹿児島県立図書館の現状を踏まえながら、その方向性として以下の5つを柱として検討してきました。

- (1) 基本的運営方針の策定及び評価項目の設定については、当館の現運営方針及び努力点をベースに、また、運営に関する評価指標は、先行研究及び他県の状況等を踏まえて検討を行う。
- (2) 評価項目の設定や評価方法の検討において、奄美図書館とも連携を図る。
- (3) 館内の図書館評価委員会を柱に、新たな組織を設計し全館体制で取り組む。
- (4) その際、「24年基準」で述べられている、都道府県立図書館の設置及び運営の基本及び県の上位計画等を十分踏まえたものとする。
- (5) 策定に当たっては、アンケート等による県内市町村立図書館（室）及び県民ニーズの調査を踏まえたものとする。

この方向性をもとに、平成30年10月から令和元年12月にかけて

- 図書館内での10年後を見据えた県立図書館像等のワークショップや協議
- 県内市町村立図書館（室）へのアンケート実施
- 県立図書館利用者へのアンケートの実施
- 望ましい図書館像及び他県の図書館運営方針・図書館評価に関する研究
- 図書館協議会委員への原案に対する聞き取り調査を実施し、今後おおむね5年後までの基本方針として作成しました。

【基本的運営方針策定に向けたイメージ図】



2 目指す図書館像について

(1) 本県の施策等の観点から

本県は「かごしま未来創造ビジョン」において、「『鹿児島に生まれてよかった。鹿児島に住んでよかった。』と実感できる鹿児島」を目指す姿とし、「1 ひとが輝く鹿児島～地域に誇りを持ち多彩な個性と能力を発揮～」、「2 ひとが潤う鹿児島～どこよりも幸せを実感～」 「3 ひとを魅了する鹿児島～元気な産業と世界に選ばれる逸品を創出～」の3つの鹿児島の実現に向けて、12の施策展開の基本方向を設定しています。図書館は、その中の「地域を愛し世界に通用する人材の育成と文化・スポーツの振興」にある「鹿児島の発展を牽引する人材の育成」に位置付けられ、生涯学習環境の充実の観点から、知の拠点として人々の成長を支援するという図書館の役割を通して、この3つの鹿児島の実現に向けて貢献することが期待されています。

これらは、鹿児島県教育振興基本計画（平成31年2月策定）における教育振興基本目標「夢や希望を実現し未来を担う鹿児島の人づくり～あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり～」につながります。図書館は、この基本計画の中で、生涯を通して学び活躍できる環境として、県民の多様化・高度化するニーズや現代的課題に対応した学習機会を提供し、生涯にわたって学び直しのできる環境としての役割を果たす機関として県民の期待に応える役割があります。

そのため図書館は、これらの基本的施策等を踏まえた運営を展開していきます。

(2) 国の公共図書館に係る法令等の観点から

公共図書館における運営とその評価については、近年以下のような経緯をたどっています。

- ・ 平成13年「公共図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（数値目標の設定と自己評価，評価結果の住民への公開：努力義務）

↓

- ・ 平成20年「図書館法」改正（図書館の運営状況に関する評価と改善及び運営状況に関する情報提供：努力義務）

↓

- ・ 平成24年「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（自己評価＋外部評価・第三者評価，インターネット等を通じての評価結果の公開：努力義務）

また、「24年基準」においては、都道府県及び都道府県立図書館の役割が明確化され、「設置の基本」では、図書館の拡充及び住民への適切なサービス，県内の図書館サービスの全体的な進展を図る観点に立った市町村立図書館の設置及び運営に関する必要な指導・助言等が述べられています。また、「運営の基本」では、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえたサービスの実施や読書活動の振興及び地域の情報拠点としての運営に努めるとともに、市町村立図書館に対する円滑な図書館運営の確保のための援助や図書館間の連絡調整等の推進等が努力義務として明記されています。

県立図書館の運営方針においてもこれらの観点を踏まえた図書館像の設定と方針の策定に当たりました。

(3) 県民のニーズ(市町村立図書館等及び来館者等アンケート)の観点から

ア 市町村立図書館へのアンケート（対象：30市町村）

令和元年7月に実施した市町村立図書館等へのアンケート（「24年基準」の項目の中から特に重点的に取り組んでもらいたいものについて2つに絞って回答）の結果は以下のとおりでした。

- 情報化・国際化の進展に留意した情報やスキル等の紹介及び図書館長の研修の充実といった「図書館の職員の研修」に関するもの（12件）
- 県立の学校への支援や団体貸出し・調べ学習のセット貸出しやデジタル図書等の貸出しを含めた「資料の紹介・提供」に関するもの（9件）
- 指定管理者制度による図書館運営の在り方や著作権に関する手引

書等の作成等,「その他,図書館の運営」に関するもの(8件)

- 図書館のハイブリッド化や館外貸出禁止資料のデジタルアーカイブによる閲覧可能化への要望など「図書館資料」に関するもの(5件)
- 市町村同士の相互貸借に対する物流支援や県立学校等への団体貸出し・調べ学習セット貸出しサービスなどの図書館物流支援など「円滑な搬送の確保」に関するもの(4件)
- その他,協力レファレンス(「情報サービス」),公共図書館のIT化(「施設・設備」),図書館運営に関する各種調査(「調査研究」)に関するもの(それぞれ1件)

これらの市町村立図書館等のニーズを踏まえて,運営方針及び事業計画の検討をしました。

イ 来館者・非来館者へのアンケート

令和元年7月に実施した来館者・非来館者へのアンケート(今後,県立図書館に充実してほしいサービスについて)の結果は,以下のとおりでした。

【来館者】(県立図書館に来館した回答者321人 <複数回答あり>)

<図書館資料>

- ㊦ 図書の充実 61.4%
- ㊧ 雑誌の充実 25.9%
- ㊨ 郷土(鹿児島県)に関する資料の充実 14.3%

<図書館サービス>

- ㊦ 高齢者に対するサービス 19.9%
- ㊧ 調査相談(レファレンスサービス)の充実 18.4%
- ㊨ 障害者に対するサービス 14.3%

<支援・連携・施設設備・講座等>

- ㊦ ボランティア活動等の促進 32.4%
- ㊧ Wi-Fi環境の整備 21.2%
- ㊨ 職員研修の充実 20.6%

【非来館者】(市町村立図書館等利用者(563人)及びホームページ(9人)での回答者572人)

<図書館資料>

- ㊦ 図書の充実 43.5%
- ㊧ 郷土(鹿児島県)に関する資料の充実 21.9%
- ㊨ 雑誌の充実 17.7%

<図書館サービス>

- (ア) 障害者に対するサービス 16.3%
- (イ) 調査相談（レファレンスサービス）の充実 15.7%
- (ロ) 外国人等に対するサービス 14.3%

<支援・連携・施設設備・講座等>

- (ア) ボランティア活動等の促進 33.0%
- (イ) 職員研修の充実 31.3%
- (ロ) Wi-Fi環境の整備 26.4%

来館者・非来館者の期待するものは、館内サービスに係るものが上位を占めましたが、それ以外にも自由記述の中で、例えば「館内の温度をもう少し快適にしてほしい」「返却ポストを増やしてほしい」などの「施設・設備」に関する要望が多く見られました。また、「誰もが『居場所』として活用できる図書館にしてほしい」「他業種交流スペースを作ると面白い」「利用者が一緒になって開催できるイベントの充実」といった滞在型図書館や交流・参加型イベントへの要望等を含め、図書館の新たな役割を期待する声がありました。さらに、館外サービスについて要望が多かったのが「地方の図書館同士の相互貸借の改善」「学校図書館にも直接搬送してほしい」「相互貸借をネットで可能にできないか」など「円滑な搬送の確保」についてのものでした。

(4) 先進県の研究から

運営方針の策定に当たっては、県外の先進する図書館等への訪問を実施するとともに、関連する資料を提供していただき、それぞれの方針及び事業計画について研究してきました。また、平成30年度の九州各県立及び政令指定都市立図書館長会においては、「基本的運営方針の策定に関する各県の取組について」を協議事項として提案し、それぞれの図書館の運営方針及び評価の在り方等について研究してきました。

(5) 図書館協議会委員からの意見聴取

以上の4つの観点・研究から、具体的な運営方針の原案を作成し、図書館協議会委員への意見聴取を経て、鹿児島県立図書館の目指す姿と4つの役割（使命）、指標・目標等を以下のように決めました。

【鹿児島県立図書館の目指す姿】

「人づくりに貢献し、成長し続ける図書館」

<県立図書館の4つの役割> 「支える・役立つ・つなぐ・育む」

目指す姿については、「支える」「役立つ」「つなぐ」「育む」の4つの役割が達成された結果が、「上位目標である県の方針とどのように結び付くのか」という視点で考えて設定しました。また、「人づくりに貢献するためには、図書館を利用することで成長していく人や社会と共に図書館も成長し続けることが必要である」という考え方にに基づき設定しました。

【県立図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し、成長し続ける図書館

【目指す姿を実現するための4つの役割】

支える 役立つ つなぐ 育む

【4つの役割を果たすための重点取組事項】

- | | | | |
|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 市町村図書館支援の充実 2 ネットワークの構築 3 図書館運営研究の拠点 4 図書館協議会等の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 1 利用者に対応したサービスの充実 2 課題解決支援・学習の充実 3 郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化 4 図書館資料の計画的な整備 | <ul style="list-style-type: none"> 1 場と人をつなぐ環境づくり 2 人と人をつなぐ環境づくり 3 情報を人とをつなぐ環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> 1 子供読書活動の推進 2 大人読書活動の推進 3 郷土の人・文化の理解と継承 |
|--|--|--|---|

【目指す姿を実現させるための指標・目標】

県民一人当たりの貸出冊数 ・ 市町村満足度	貸出＋書庫閲覧冊数 ・ 利用者満足度	入館者数 ・ 利用者満足度	研修会等の参加人数 ・ 講座等の参加者満足度
-----------------------------	--------------------------	---------------------	------------------------------

IV 基本目標及び重点となる事業・指標

1 支える図書館（地方奉仕の視点、ネットワーク構築、調査研究の拠点）

<基本目標1> 【主要指標：県民一人当たりの貸出冊数・市町村満足度】

鹿児島県立図書館は、県立奄美図書館との連携を図りながら、県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより、「支える」図書館を目指します。

<重点施策及び事業等>

1 市町村図書館支援の充実 【参考指標：図書館等への貸出冊数】

- 1-1 市町村立図書館等の要求に応える資料の充実
- 1-2 貸出文庫の充実
- 1-3 県内の相互貸借の充実
- 1-4 図書物流システムの充実

2 ネットワークの構築 【参考指標：居住地返却の冊数・横断検索への接続市町村数】

- 2-1 電算システムの維持管理及び充実
- 2-2 県内公共図書館（室）との連携
- 2-3 関係行政機関，学校，他の社会教育施設，民間の関係団体等との連携
- 2-4 大学図書館との連携

3 図書館運営研究の拠点 【参考指標：講座等への参加者数】

- 3-1 県図書館大会の充実
- 3-2 図書館「総合」講座等の充実
- 3-3 モデル図書室としての児童文化室の充実
- 3-4 職員に対する計画的・継続的・段階的な研修の実施
- 3-5 県内全公立図書館（室）等の巡回訪問

4 図書館協議会等の充実 【参考指標：「県立図書館を語る会」の参加者数】

- 4-1 図書館協議会の充実
- 4-2 図書館評価等の実施・公開（アンケート，外部評価）
- 4-3 「県立図書館を語る会」などの場の設定

2 役立つ図書館（主に館内奉仕の視点）

＜基本目標2＞ 【主要指標：貸出＋書庫閲覧冊数・利用者満足度】

鹿児島県立図書館は、県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより、「役立つ」図書館を目指します。

＜重点施策及び事業等＞

- 1 利用者に対応したサービスの充実 【参考指標：利用者満足度】
 - 1-1 ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの充実
 - 1-2 Wi-Fi等情報通信環境の整備
 - 1-3 図書館のハイブリッド化に向けた調査・研究

- 2 課題解決支援・学習支援の充実 【参考指標：レファレンス検索データ入力件数】
 - 2-1 レファレンスサービス等の情報サービスの充実
 - 2-2 課題解決支援コーナー等の充実
 - 2-3 課題解決支援等に関する講座、講演会の実施

- 3 郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化 【参考指標：デジタル化資料数】
 - 3-1 郷土資料（地域資料）の網羅的な収集
 - 3-2 郷土資料及び地方行政資料の電子化
 - 3-3 貴重資料のデジタルアーカイブ化

- 4 図書館資料の計画的な整備 【参考指標：蔵書冊数】
 - 4-1 資料収集方針に基づく収集・整備及び重点収集資料の検討
 - 4-2 デイジー図書の収集
 - 4-3 雑誌スポンサー制度の実施と活用
 - 4-4 計画的な蔵書管理（含：書庫増設に向けた対応）

3 つなぐ図書館（居場所としての図書館，交流の場，学びを生かす場としての視点）

<基本目標3>

【主要指標：入館者数・利用者満足度】

鹿児島県立図書館は，県民が新たな知を創出できるよう，居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら，知識や知恵，情報の交流の場づくりに努めることにより，人と人，人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

<重点施策及び事業等>

1 場と人をつなぐ環境づくり

【参考指標：利用者満足度】

- 1-1 居心地の良い空間・居場所づくり（含：施設設備の補修・改修）
- 1-2 積極的・計画的な広報活動及び情報発信
- 1-3 危機管理に係るマニュアルの充実
- 1-4 図書館へのアクセス面の整備

2 人と人をつなぐ環境づくり

【参考指標：交流イベント参加者数】

- 2-1 コミュニケーション空間の創出
- 2-2 交流イベントの開催
- 2-3 研修室貸出しの促進

3 情報と人をつなぐ環境づくり【参考指標：ボランティア活動者数・HPのリンク数・SNSフォロワー数】

- 3-1 自主的・自発的な学習活動の支援
- 3-2 多様なボランティア活動の促進
- 3-3 HP・SNSを活用した情報提供及び情報交流の場づくり

4 育む図書館（子供・大人読書活動推進，人を育む，郷土文化の理解と継承）

<基本目標4> 【主要指標：研修会等の参加者数・講座等の参加者満足度】

鹿児島県立図書館は，県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより，県民が生涯にわたって読書に親しみ，郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

<重点施策及び事業等>

1 子供読書活動の推進 【参考指標：講座等参加者数】

- 1-1 学校図書館支援の充実
- 1-2 「1日20分読書」運動の推進
- 1-3 読書活動推進スキルアップ事業

2 大人読書活動の推進 【参考指標：大人向けイベントの参加者数】

- 2-1 読書活動推進スキルアップ事業（再掲）
- 2-2 大人向けイベントの実施
- 2-3 大人の読書活動（朗読会等）の支援

3 郷土の人・文化の理解と継承 【参考指標：資料展等の参加者数】

- 3-1 海音寺潮五郎記念事業の充実
- 3-2 貴重資料関連行事の実施
- 3-3 郷土の人コーナーの運営・充実